どろんこクラブ

11 月 号　令和 8 年 11 月 16 日

笠　間　小　児　童　ク　ラ　ブ

U　R　L　https://kasama-gakudou.com/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　npo-gakudo2011@ezweb.ne.jp
T　E　L　0296-72-7658

　児童クラブのフェンスに実った風船かずらの種をむしっていた 3 年生がいました。それを見ていた 4 年生は、何度も「やめろ」と注意しますが、3 年生はなかなかやめません。すると、とうとう 4 年生が「お前、話聞いてるのか。頭おかしいんじゃないの」と一言。

　その言葉を聞いた 3 年生は部屋に戻り、難しそうな数学の問題を紙に書いて再び現れました。

「そんなこと言うんなら、この問題解いてみろ！」



　問題を見た 4 年生は一瞬たじろぎましたが、すぐにこう返しました。

「この問題が解けたからって、将来なんの役に立つの？」

　すると 3 年生は、一言。

「役に立たない。」

　これで二人のやり取りはおしまいです。

　その後は何事もなかったかのように、それぞれまた遊び始めました。

　その様子を見ながら、「子どもって、いいな」と感じました。言い合いになっても、自分なりの言葉で気持ちを表現し、いつの間にか気持ちを切り替えて、また遊ぶ。そんな子どもたちの素直さや、どこかユーモラスなやり取りに思わず笑顔になりました。

　児童クラブで過ごす毎日の何気ない場面には、子どもたちの面白さやたくましさがたくさん詰まっています。



9 月、小さなスイカの実



10 月末、朝晩の冷え込みに耐えて、ここまで成長しました。



11 月 6 日、収穫



　夏の終わりに園庭の隅で芽を出したスイカ。1 人の 3 年生が受粉を手伝いながら、その成長をずっと見守ってきました。その姿からは、身近な自然への興味や関心、そして根気強さが感じられました。先日ついに収穫の日を迎え、スイカを切ってみると中はしっかりと熟していました。ずっと見守ってきた子は、「やったー」と大喜びでした。